

2003年 大会記録

国際

◇ショープ女子国際大会（1月18～19日、フランス・トゥルコアン）

《シニア》

《カデット》▼43kg 級 谷田愛実（静岡・裾野西中）＝3位、▼49kg 級 前原愛（愛知・中京女大附高）＝優勝、▼52kg 級 柴田瑞穂（愛知・中京女大附高）＝優勝、▼56kg 級 西牧未央（大阪・関大一中）＝優勝、山名慧（愛知・中京女大附高）＝2位、▼60kg 級 鈴木博恵（京都・東宇治中）＝3位、60kg 級 栄友菜（愛知・中京女大附高）＝4位、▼63kg 級 島田佳代子（埼玉・埼玉栄高）＝4位

◇ヤリギン国際大会＝女子（1月31日～2月2日、ロシア・クラスノヤルスク）

▼48kg 級 坂本真喜子（愛知・中京女大附高）＝3位、▼59kg 級 岩間怜那（リブレ）＝優勝、▼63kg 級 正田絢子（東洋大）＝2位、▼67kg 級 斉藤紀江（ジャパンビバレッジ）＝2位、

◇コンコードカップ＝男子グレコローマン（1月31日～2月2日、米国コンコード）

《団体戦》1勝4敗

- 1回戦 日本● [2-5] ○米国軍隊
- 2回戦 日本● [1-6] ○ニューヨークAC
- 3回戦 日本● [2-5] ○米国
- 4回戦 日本● [2-5] ○米国軍隊
- 5回戦 日本○ [4-3] ●ウズベキスタン

《個人優勝》▼55kg 級 豊田雅俊（警視庁）、▼60kg 級 笹本睦（総合警備保障）

◇デーブ・シュルツ・メモリアル国際大会（2月8～9日、米国コロラドスプリングス）

《男子フリースタイル》▼55kg 級 田南部力（警視庁）＝2位、斎藤将志（日大）＝4位、▼55kg 級 足立孝司（山梨学院大）＝6位、▼60kg 級 太田亮介（警視庁）＝9位、端地順平（大東大）＝10位、▼66kg 級 宮田和幸（クリナップ）＝14位、池松和彦（日

体大助手) = 4位、鈴木崇之(立命館大) = 11位、▼74kg級 小幡邦彦(山梨学院大) = 6位、加藤陽輔(日体大) = 17位、中筋祐太(日大) = 14位、▼120kg級 田中章仁(専大) = 5位、

《男子グレコローマン》▼55kg級 豊田雅俊(警視庁) = 5位、村上文清(拓大) = 13位、▼60kg級 笹本睦(総合警備保障) = 優勝、下村博(自衛隊) = 15位、▼66kg級 飯室雅規(自衛隊) = 11位、江藤紀友(拓大) = 15位、▼76kg級 永田克彦(新日本プロレス職) = 3位、▼84kg級 松本慎吾(一宮運輸) = 優勝、▼96kg級 谷口周平(自衛隊) = 10位

《女子》▼48kg級 山本美憂(PUREBRED) = 2位

◇クリッパン女子国際大会(3月8~9日、スウェーデン・クリッパン)

▼51kg級 伊調千春(中京女大) = 優勝、▼55kg級 山本聖子(日大) = 優勝、▼63kg級 伊調馨(愛知・中京女大) = 予選リーグ敗退、▼67kg級 斉藤紀江(ジャパンビバレッジ) = 予選リーグ敗退、▼72kg級 浜口京子(ジャパンビバレッジ) = 優勝

◇中国真龍杯レスリング・フェスティバル=女子(3月13~14日、中国・桂林)

▼48kg級 吉村祥子(TBC東京) = 棄権、▼55kg級 松川知華子(富山・富山一高) = 7位、▼72kg級 村島文子(中京女大) = 優勝、

◇ポーランド・オープン=男子グレコローマン(3月15~16日、ポーランド・ウッジ)

▼51kg級 伊調千春(中京女大) = 優勝、▼55kg級 山本聖子(日大) = 優勝、▼63kg級 伊調馨(愛知・中京女大附高) = 優勝、▼67kg級 斉藤紀江(ジャパンビバレッジ) = 2位、▼72kg級 浜口京子(ジャパンビバレッジ) = 優勝、

◇アジア選手権(6月5~8日、インド・ニューデリー)

《男子フリースタイル》▼55kg級 松永共広(日体大研) = 5位、▼60kg級 松尾大士(日体大研) = 5位、▼66kg級 池松和彦(日体大助手) = 2位、▼74kg級 長島和幸(早大) = 7位、▼84kg級 磯川孝生(拓大) = 10位、▼96kg級 森山政秀(日体大) = 7位、▼120kg級 諏訪間幸平(クリナップ) = 6位、

《男子グレコローマン》▼55kg級 藤田康人(兵庫県協会) = 6位、▼60kg級 伊藤光(岡山県体協) = 5位、▼66kg級 伊是名正旭(日体大OBB) = 6位、▼74kg級 鶴巻宰(国士大) = 6位、▼84kg級 太田充洋(日本文理大職) = 6位、▼96kg級 森角裕介(新日本プロレス職) = 4位、▼120kg級 新庄寛和(国士大) = 6位、

《女子》▼48kg 級 野口美香（鹿児島・鹿屋ク）＝優勝、▼51kg 級 服部担子（中京女大）＝優勝、▼55kg 級 立本小百合（中京女大）＝2位、▼59kg 級 岩間怜那（リブレ）＝優勝、▼63kg 級 正田絢子（東洋大）＝優勝、▼67kg 級 斎藤紀江（ジャパンビバレッジ）＝優勝、▼72kg 級 村島文子（中京女大）＝5位、

◇ベログラゾフ国際大会＝男子フリースタイル（7月5～6日、ロシア・カリニングラ

ード）

▼55kg 級 田南部力（警視庁）＝優勝、▼60kg 級 太田亮介（警視庁）＝決勝T1回戦敗退、▼66kg 級 池松和彦（日体大助手）＝2位、▼74kg 級 小幡邦彦（総合警備保障）＝予選リーグ敗退、▼84kg 級 横山秀和（秋田・秋田商高教）＝2位、

◇世界ジュニア選手権（8月24～31日、トルコ・イスタンブール）

《男子フリースタイル》▼50kg 級 深沢剛（徳山大）＝18位、▼55kg 級 足立孝司（山梨学院大）＝5位、▼60kg 級 高塚紀行（茨城・霞ヶ浦高）＝13位、▼66kg 級 鈴木崇之（立命館大）＝12位、▼74kg 級 松井翔（立命館大）＝32位、▼84kg 級 松本真也（日大）＝16位、▼96kg 級 吉田年成（専大）＝19位、▼120kg 級 新堀武（東洋大）＝13位

《男子グレコローマン》▼50kg 級 上田吉輝（徳山大）＝19位、▼55kg 級 長谷川恒平（青山学院大）＝18位、▼60kg 級 福間道元（日体大）＝11位、▼66kg 級 江藤紀友（拓大）＝28位、▼74kg 級 鶴巻宰（国士大）＝23位、▼84kg 級 曾我部健（国士大）＝28位、▼96kg 級 吉田光志（福岡大）＝26位、▼120kg 級 後藤志勝（日体大）＝19位

《女子》▼44kg 級 進藤恵（大阪・堺女高）＝9位、▼48kg 級 船津友里（東洋大）＝4位、▼51kg 級 赤坂幸子（福岡大）＝優勝、▼55kg 級 松川知華子（日大）＝4位、▼59kg 級 石井千恵（中京女大）＝4位、▼63kg 級 宇野祥弥（三重・四日市四郷高）＝17位、▼67kg 級 松井貴子（富山・富山一高）＝8位、▼72kg 級 新海真美（滋賀・日野ク）＝11位、

◇ピトラシンスキ国際大会＝男子グレコローマン（8月22～23日、ポーランド・バウ

ブジフ）

▼55kg 級 豊田雅俊（警視庁）＝優勝、▼60kg 級 笹本睦（総合警備保障）＝3位、▼74kg 級 永田克彦（新日本プロレス職）＝14位、▼96kg 級 加藤賢三（自衛隊）＝22位、

◇世界選手権=男子フリースタイル、女子（9月12～14日、米国・ニューヨーク）

《男子フリースタイル》▼55kg級 田南部力（警視庁）=7位、▼60kg級 太田亮介（警視庁）=16位、▼66kg級 池松和彦（日体大助手）=3位、▼74kg級 小幡邦彦（総合警備保障）=10位、▼84kg級 横山秀和（秋田・秋田商高教）=24位、▼96kg級 中尾芳広（エス・ピー・ネットワーク）=21位、▼120kg級 諏訪間幸平（クリナップ）=18位、

《女子》▼48kg級 坂本真喜子（愛知・中京女大附高）=5位、▼51kg級 伊調千春（中京女大）=優勝、▼55kg級 吉田沙保里（中京女大）=優勝、▼59kg級 山本聖子（ジャパンビバレッジ）=優勝、▼63kg級 伊調馨（中京女大）=優勝、▼67kg級 斉藤紀江（ジャパンビバレッジ）=5位、▼72kg級 浜口京子（ジャパンビバレッジ）=優勝、

◇世界選手権=男子グレコローマン（10月2～5日、フランス・クレティユ）

▼55kg級 豊田雅俊（警視庁）=20位、▼60kg級 笹本睦（総合警備保障）=17位、▼66kg級 飯室雅規（自衛隊）=19位、▼74kg級 永田克彦（新日本プロレス職）=10位、▼84kg級 松本慎吾（一宮運輸）=20位、▼96kg級 加藤賢三（自衛隊）=30位、▼120kg級 鈴木克影（警視庁）=24位

◇ワールドカップ=女子（10月11～12日、東京・代々木競技場第2体育館）

2位（5勝1敗）

1回戦 日本○ [6-1] ●カナダ

2回戦 日本○ [6-1] ●中国

3回戦 日本○ [7-0] ●ドイツ

4回戦 日本○ [7-0] ●ロシア

5回戦 日本○ [7-0] ●ギリシャ

6回戦 日本● [3-4] ○米国

《個人順位》▼48kg級 坂本真喜子（愛知・中京女大付高）=5位、山本美憂（PUREBRED）=6位、▼51kg級 伊調千春（中京女大）=4位、服部担子（中京女大）=6位、▼55kg級 吉田沙保里（中京女大）=優勝、▼59kg級 山本聖子（ジャパンビバレッジ）=2位、岩間怜那（リプレ）=6位、▼63kg級 伊調馨（中京女大）=優勝、正田絢子（東洋大）=8位、▼67kg級 斉藤紀江（ジャパンビバレッジ）=3位、坂本襟（リプレ）=8位、▼72kg級 浜口京子（ジャパンビバレッジ）=3位

◇クランスマン国際大会＝男子フリースタイル（11月7～8日、カナダ・バンクーバー）

一)

▼55kg級 牛島弘樹（広島・三次中教）＝2位、▼66kg級 笥田幸宏（国士大助手）＝2位、池田孝之（山形県体協）＝五失、▼66kg級 小原康司（自衛隊）＝四失、▼84kg級 横山武典（岡山県協会）＝6位

◇アジア・カデット選手権（11月11～18日、台湾・台中）

《男子フリースタイル》▼42kg級 戸塚孝二（千葉・関宿高）、▼46kg級 長江翔太（三重・久居高）＝3位、▼50kg級 小田裕之（三重・久居中）＝4位、▼54kg級 岩崎大輔（岩手・専大北上高）＝6位、▼58kg級 安澤薫（神奈川・向上高）＝4位、▼63kg級 青山久志（島根・松江工高）＝5位、▼69kg級 小椋良介（静岡・沼津学園高）＝6位、▼76kg級 藤本大輔（奈良・広陵高）、▼85kg級 宝龍一（岩手・宮古商高）＝6位、▼100kg級＝派遣なし

《男子グレコローマン》▼42kg級 梶雅晴（兵庫・育英ク）＝3位、▼46kg級 菊池賢人（千葉・木間ヶ瀬中）＝4位、▼50kg級 大原淳哉（大阪・近大付高）＝6位、▼54kg級 倉本一真（滋賀・日野高）＝6位、▼58kg級＝出場なし、▼63kg級 田島一賢（熊本・玉名工高）、▼69kg級 井上智裕（兵庫・育英高）＝2位、▼76kg級 齋川哲克（栃木尾・足利工高）＝優勝、▼85kg級 越智誠（愛媛・今治工高）、▼100kg級 中塔一貴（京都・南京都）

《女子》▼38kg級＝出場なし、▼40kg級＝出場なし、▼43kg級＝出場なし、▼46kg級＝出場なし、▼49kg級＝出場なし、▼52kg級 柴田瑞穂（愛知・中京女大付高）＝2位、▼56kg級 西牧未央（愛知・中京女大付高）＝計量失格、▼60kg級 中田絵里子（京都・立命館宇治）＝2位、▼65kg級 梶家富美香（岩手・宮古商高）＝優勝、▼70kg級 田中希枝（愛知・中京女大付高）＝優勝

◇アンリデグレーヌ国際大会＝男子グレコローマン（11月28～29日、フランス・ニース）

ス)

▼60kg級 下村博（自衛隊）＝4位、▼66kg級 富谷光雄（自衛隊）＝4位、▼74kg級 加納篤（岐阜・恵峰学園職）＝予選リーグ敗退、▼84kg級 小向忍（自衛隊）＝4位、▼96kg級 馬淵賢司（恵峰学園職）＝予選リーグ敗退

国内

◇全国高校選抜大会（3月27～29日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦（3年ぶり13度目）、[2] 鹿児島・鹿屋中央、[3] 山形・山形商、青森・光星学院（

《個人戦優勝者》▼50kg級 安武誠（茨城・土浦日大）、▼54kg級 菊地憲（秋田・秋田商）、▼58kg級 稲葉泰弘（茨城・霞ヶ浦）、▼63kg級 高塚紀行（茨城・霞ヶ浦）、▼69kg級 阿佐光一郎（鹿児島・鹿屋中央）、▼76kg級 工藤豪（青森・光星学院）、▼85kg級 山縣養一（神奈川・日大藤沢）、▼130kg級 下中隆広（徳島・池田）

◇ジャパントイーンズカップ（4月7日、栃木・足利市体育館）

《優勝者》▼48kg級 坂本真喜子（愛知・中京女大附高）、▼51kg級 坂本日登美（中京女大大学院）、▼55kg級 吉田沙保里（中京女大）、▼59kg級 岩間怜那（リプレ）、▼63kg級 伊調馨（中京女大）、▼67kg級 斉藤紀江（ジャパナビバレッジ）、▼72kg級 浜口京子（ジャパナビバレッジ）

◇全日本選抜選手権予選（4月13日、東京・国立スポーツ科学センター）

※出場資格のない選手の予選会で、各階級とも上位4選手が出場資格獲得（成績省略）

◇JOC杯ジュニアオリンピック（4月26～27日、神奈川・横浜文化体育館）

《男子ジュニア・フリースタイル優勝者》▼50kg級 深沢剛（徳山大）、▼55kg級 足立孝司（山梨学院大）、▼60kg級 高塚紀行（茨城・霞ヶ浦高）、▼66kg級 鈴木崇之（立命館大）、▼74kg級 松井翔（立命館大）、▼84kg級 松本真也（日大）、▼96kg級 吉田年成（専大）、▼120kg級 新堀武（東洋大）

《男子ジュニア・グレコローマン優勝者》▼50kg級 上田吉輝（徳山大）、▼55kg級 長谷川恒平（青山学院大）、▼60kg級 福間道元（日体大）、▼66kg級 江藤紀友（拓大）、▼74kg級 鶴巻宰（国土大）、▼84kg級 曾我部健（国土大）、▼96kg級 吉田光志（福岡大）、▼120kg級 後藤志勝（日体大）

《男子カデット・フリースタイル優勝者》▼42kg級 戸塚孝二（千葉・関宿高）、▼46kg級 長江翔太（三重・久居高）、▼50kg級 小田裕之（三重・久居中）、▼54kg級 山口巨（京都・立命館宇治高）、▼58kg級 安沢薫（神奈川・向上高）、▼63kg級 青山久志（島根・松江工高）、▼69kg級 小椋良介（静岡・飛竜高）、▼76kg級 藤本大輔（奈良・広陵高）、▼85kg級 小林敏雄（長野・上田西高）、▼100kg級 木暮僚太（茨城・霞ヶ浦高）

《男子カデット・グレコローマン優勝者》▼42kg級 梶雅晴（育英ク）、▼46kg級 菊

池賢人（千葉・木間ヶ瀬中）、▼50kg 級 峰村亮（神奈川・磯子工高）、▼54kg 級 倉本一真（滋賀・日野高）、▼58kg 級 佐々木直哉（広島・福山明王台高）、▼63kg 級 田島一賢（熊本・玉名工高）、▼69kg 級 畑俊輔（神奈川・日大藤沢高）、▼76kg 級 齋川哲克（栃木・足利工高）、▼85kg 級 越智誠（愛媛・今治工高）、▼100kg 級 渡辺達也（愛媛・今治工高）

《女子ジュニア優勝者》▼43kg 級 進藤恵（大阪・堺女高）、▼46kg 級 船津友里（東洋大）、▼50kg 級 赤坂幸子（福岡大）、▼54kg 級 松川知華子（日大）、▼58kg 級 石井千恵（中京女大）、▼63kg 級 宇野祥弥（三重・四日市四郷高）、▼68kg 級 松井貴子（富山・富山一高）、▼75kg 級 新海真美（滋賀・日野ク）

《女子カデット優勝者》▼38kg 級 荒川早紀恵（栃木・みぶチビッコ）、▼40kg 級 岡谷恵利（東京・木口道場）、▼43kg 級 野中千尋（静岡・沼津ク）、▼46kg 級 片渕有紀（栃木・足利工大付高）、▼49kg 級 馬越真弓（京都・立命館宇治高）、▼52kg 級 柴田瑞穂（愛知・中京女大付高）、▼56kg 級 西牧未央（愛知・中京女大付高）、▼60kg 級 中田絵理子（京都・立命館宇治高）、▼65kg 級 柁家富美香（岩手・宮古商高）、▼70kg 級 田中希枝（愛知・中京女大付高）

◇明治乳業杯全日本選抜選手権（5月1～2日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg 級 田南部力（警視庁）、▼60kg 級 関川博紀（新潟・三条高教）、▼66kg 級 池松和彦（日体大助）、▼74kg 級 小幡邦彦（総合警備保障）、▼84kg 級 横山秀和（秋田・秋田商高教）、▼96kg 級 中尾芳広（エス・ピー・ネットワーク）、▼120kg 級 諏訪間幸平（クリナップ）

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg 級 豊田雅俊（警視庁）、▼60kg 級 笹本睦（総合警備保障）、▼66kg 級 飯室雅規（自衛隊）、▼74kg 級 永田克彦（新日本プロレス職）、▼84kg 級 松本慎吾（一宮運輸）、▼96kg 級 加藤賢三（自衛隊）、▼120kg 級 鈴木克彰（警視庁）

◇東日本学生リーグ戦（5月13～16日、東京・駒沢体育館）

《順位》[1] 日大（6年ぶり6度目）、[2] 日体大、[3] 拓大、[4] 山梨学院大、[5] 早大、[6] 国士大、[7] 専大、[8] 青山学院大、[9] 東洋大、[10] 大東大、[11] 中大、[12] 群馬大、[13] 明大、[14] 神奈川大、[15] 東農大、[16] 法大

◇西日本学生春季リーグ戦（5月24～25日、大阪・大阪府立体育会館第2第2競技場）

《順位》[1] 立命館大（4季連続6度目）、[2] 徳山大、[3] 同志社大、[4] 福岡

大、[5] 南九州大、[6] 近大、[7] 桃山学院大、[8] 天理大

◇全国中学生選手権（6月7～8日、茨城・茨城スポーツセンター）

《男子優勝者》▼38kg級 高橋勇氣（千葉・木間ヶ瀬）、▼42kg級 水越智也（山梨・上野原）、▼47kg級 山口代悟（京都・東宇治）、▼53kg級 小田裕之（三重・久居）、▼59kg級 松本桂（長崎・有明）、▼66kg級 永田裕城（京都・竹野弥栄）、▼73kg級 加藤大志朗（三重・富洲原）、▼85kg級 松崎太一（愛媛・松山南二）、▼110kg級 菅政宗（長崎・有明）

《女子優勝者》▼40kg級 三村冬子（京都・網野）、▼44kg級 坂井のりこ（福岡・香椎一）、▼48kg級 鈴木幸子（栃木・雀宮）、▼52kg級 伊藤純子（三重・富洲原）、▼57kg級 阿部友香（秋田・本荘北）、▼70kg級 佐藤文香（茨城・水戸四）

◇東日本学生春季新人選手権（6月26～27日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 長谷川恒平（青山学院大）、▼60kg級 坂本将典（日大）、▼66kg級 秋本直樹（日大）、▼74kg級 鶴巻宰（国士大）、▼84kg級 松本真也（日大）、▼96kg級 吉田年成（専大）、▼120kg級 米山祥嗣（日体大）

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 長谷川恒平（青山学院大）、▼60kg級 小島豪臣（日体大）、▼66kg級 江藤紀友（拓大）、▼74kg級 後藤秀樹（日体大）、▼84kg級 石沢幸佑（日体大）、▼96kg級 曾我部健（国士大）、▼120kg級 後藤志勝（日体大）

◇西日本学生選手権（7月4～5日、大阪・堺市金岡公園体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 菅沼翔吾（関学大）、▼60kg級 橋井功佑（立命館大）、▼66kg級 西田順平（同志社大）、▼74kg級 藤村義（徳山大）、▼84kg級 佐藤秀一（立命館大）、▼96kg級 裾分隆仁（南九州大）、▼120kg級 大西孝治（東亜大）

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 谷垣浩司（東亜大）、▼60kg級 南康弘（東亜大）、▼66kg級 鈴木崇之（立命館大）、▼74kg級 藤村義（徳山大）、▼84kg級 孟和巴拉（中京学院大）、▼96kg級 吉田光志（福岡大）、▼120kg級 西川潤（桃山学院大）

◇全日本社会人選手権（7月12～13日、埼玉・志木市民体育館）

《団体戦優勝チーム》▼男子実業団 総合警備保障A、▼同クラブ 自衛隊B、▼女子

ジャパンビバレッジ

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 戸井田昌教（だっぺクラブ）、▼60kg級 井上真一（警視庁）、▼66kg級 池田孝之（山形クラブ）、▼74kg級 笥田幸宏（国士舘クラブ）、▼84kg級 鈴木豊（自衛隊）、▼96kg級 横山武典（倉敷クラブ）、▼120kg級 福田大樹（総合警備保障）

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 吉田誠治（神奈川クラブ）、▼60kg級 平井進悟（総合警備保障）、▼66kg級 富谷光雄（自衛隊）、▼74kg級 菅太一（警視庁）、▼84kg級 永田克彦（新日本プロレス職）、▼96kg級 谷口周平（自衛隊）、▼120kg級 室谷正憲（和歌山クラブ）

《女子優勝者》▼48kg級 清水美里（ジャパンビバレッジ）、▼51kg級 鳥海智恵子（代々木クラブ）、▼55kg級 菅原和美（志映館）、▼59kg級 海原未央（代々木クラブ）、▼63kg級＝出場なし、▼67kg級＝斎藤紀江（ジャパンビバレッジ）、▼72kg級 浜口京子（ジャパンビバレッジ）

◇インターハイ（7月31日～8月3日、長崎・島原市復興アリーナ）

《学校対抗戦》[1] 茨城・霞ヶ浦（2年連続16度目）、[2] 静岡・飛龍、[3] 山形・山形商、岐阜・岐南工

《個人戦優勝者》▼50kg級 長尾武沙士（大阪・近大付）、▼54kg級 稲葉泰弘（茨城・霞ヶ浦）、▼58kg級 大沢茂樹（茨城・霞ヶ浦）、▼63kg級 高塚紀行（茨城・霞ヶ浦）、▼69kg級 荒川翔（茨城・霞ヶ浦）、▼76kg級 宮路高行（新潟・三条工）、▼85kg級 山縣養一（神奈川・日大藤沢）、▼130kg級 下中隆広（徳島・池田）

◇全国高校女子選手権（8月10日、岩手・宮古市体育館）

《優勝者》▼43kg級 進藤恵（大阪・堺女）、▼46kg級 河村友海（愛知・中京女大付）、▼50kg級 前原愛（愛知・中京女大付）、▼54kg級 馬越真弓（京都・立命館宇治）、▼58kg級 西牧未央（愛知・中京女大付）、▼63kg級 鈴木博恵（京都・立命館宇治）、▼68kg級 新海真美（滋賀・日野）、▼72kg級 田中希枝（愛知・中京女大付）

◇全国中学女子選手権（8月10日、岩手・宮古市体育館）

《優勝者》▼38kg級 荒川早紀恵（栃木・壬生）、▼40kg級 服部加奈（三重・多度）、▼43kg級 坂井のりこ（福岡・香椎一）、▼46kg級 鈴木幸子（栃木・雀宮）、▼49kg級 宮原尚子（秋田・秋田南）、▼52kg級 伊藤純子（三重・富洲原）、▼56kg級 渡

部沙織（福島・荒海）、▼60kg級 宇野杏奈（三重・富洲原）、▼70kg級 佐藤文香（茨城・水戸四）

◇全国高校生グレコローマン選手権（8月17～19日、大阪・堺市金岡公園体育館）

《優勝者》▼50kg級 峰村亮（神奈川・磯子工）、▼54kg級 松本隆太郎（群馬・館林）、▼58kg級 関谷竜太郎（鹿児島・鹿屋中央）、▼63kg級 藤本浩平（静岡・飛竜）、▼69kg級 岡本一紀（静岡・焼津中央）、▼76kg級 斎川哲克（栃木・足利工）、▼85kg級 山縣養一（神奈川・日大藤沢）、▼97kg級 下中隆広（徳島・池田）、▼120kg級 竹内勝信（茨城・霞ヶ浦）

◇全日本学生選手権（8月26～29日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 清水聖志人（日体大）、▼60kg級 小島豪臣（日体大）、▼66kg級 吉真恒治（立命館大）、▼74kg級 長島和幸（早大）、▼84kg級 磯川孝生（拓大）、▼96kg級 森山政秀（日体大）、▼120kg級 田中章仁（専大）

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 村上文清（拓大）、▼60kg級 庄司優亮（拓大）、▼66kg級 中井伸武（拓大）、▼74kg級 子川亮介（日体大）、▼84kg級 山本悟（日体大）、▼96kg級 前島信彦（拓大）、▼120kg級 沢田直樹（拓大）

《女子優勝者》▼48kg級 平岡深雪（大東大）、▼51kg級 服部担子（中京女大）、▼55kg級 関根ゆう（大東大）、▼59kg級 菅綾子（日大）、▼63kg級 正田絢子（東洋大）、▼67kg級 塚本真紀（中京女大）、▼72kg級 村島文子（中京女大）

◇全日本学生王座決定戦（9月22日、東京・駒沢体育館）=決勝記録

日大○ [6-1] ●専大

※日大は6年ぶり8度目の優勝

◇西日本学生新人戦（9月27～28日、大阪・堺市金岡公園体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 [1]前島壮士（福岡大）、▼60kg級 [1]川翔太（日本文理大）、▼66kg級 [1]三谷裕之（福岡大）、▼74kg級 [1]鈴木崇之（立命館大）、▼84kg級 [1]松井 翔（立命館大）、▼96kg級 [1]坂本憲蔵（日本文理大）、▼120kg級 [1]黒川茂高（福岡大）

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 [1]桂大樹（近大）、▼60kg級 [1]川翔太（日本文理大）、▼66kg級 [1]三谷裕之（福岡大）、▼74kg級 [1]鈴木崇之（立命館大）、▼84kg級 [1]松井翔（立命館大）、▼96kg級 [1]孟和巴拉（中京学院大）、▼120kg級 [1]

黒川茂高（福岡大）

◇全日本大学グレコローマン選手権（10月9～10日、東京・駒沢体育館）

《優勝者》▼55kg級 村上文清（拓大）、▼60kg級 長谷川拓也（中大）、▼66kg級 中井伸武（拓大）、▼74kg級 鶴巻宰（国士舘大）、▼84kg級 相沢純（中大）、▼96kg級 前島信彦（拓大）、▼120kg級 沢田直樹（拓大）

《大学対抗得点》[1] 拓大（4年連続4度目）、[2] 日体大、[3] 中大

◇国民体育大会（10月26～29日、静岡・東伊豆勤労者体育センター）

《成年フリースタイル優勝者》▼55kg級 松永共広（静岡・静岡県協会）、▼60kg級 井上謙二（埼玉・自衛隊）、▼66kg級 天谷満博（茨城・土浦日大高教）、▼74kg級 工藤祐士（岡山・高松農高教）、▼84kg級 横山秀和（秋田・秋田商高教）、▼96kg級 小平清貴（東京・警視庁）、▼120kg級 諏訪間幸平（福島・クリナップ）

《成年グレコローマン優勝者》▼55kg級 村田知也（滋賀・日野高教）、▼60kg級 平井進悟（東京・総合警備保障）、▼66kg級 宮田和幸（福島・クリナップ）、▼74kg級 菅太一（東京・警視庁）、▼84kg級 太田充洋（大分・日本文理大教）、▼96kg級 太田宣明（埼玉・自衛隊）、▼120kg級 鈴木克彰（東京・警視庁）

《少年フリースタイル優勝者》▼50kg級 富岡直希（長野・上田西）、▼54kg級 富田和秀（鹿児島・鹿屋中央）、▼58kg級 大沢茂樹（茨城・霞ヶ浦）、▼63kg級 高塚紀行（茨城・霞ヶ浦）、▼69kg級 大月葵斐（大分・日本文理大付）、▼76kg級 工藤豪己（青森・光星学院）、▼85kg級 山縣養一（神奈川・日大藤沢）、▼97kg級 北村克哉（東京・日本工大東京工）、▼120kg級 秋山智史（静岡・飛竜）

《少年グレコローマン優勝者》▼50kg級 縦山泰幸（静岡・沼津城北）、▼54kg級 松本隆太郎（群馬・館林）、▼58kg級 関谷竜太郎（鹿児島・鹿屋中央）、▼63kg級 藤本浩平（静岡・飛竜）、▼69kg級 岡本一紀（静岡・焼津中央）、▼76kg級 斎川哲克（栃木・足利工）、▼85kg級 後藤紳介（静岡・稲取）、▼97kg級 下中隆広（徳島・池田）、▼120kg級 竹内勝信（茨城・霞ヶ浦）、

◇全日本大学選手権（11月7～8日、兵庫・西宮市薬業鳴尾浜SC）

《優勝者》▼55kg級 清水聖志人（日体大）、▼60kg級 小島豪臣（日体大）、▼66kg級 佐藤吏（早大）、▼74kg級 高橋龍太（拓大）、▼84kg級 長島和幸（早大）、▼96kg級 松本真也（日大）、▼120kg級 田中章仁（専大）

《大学対抗得点》[1] 日体大（2年ぶり18度目）、[2] 日大、[3] 拓大

◇全国社会人オープン選手権（11月15～16日、埼玉・新座市民総合体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 徳留旭（自衛隊）、▼60kg級 上田将勝（リ
ーデン）、▼66kg級 小原康司（自衛隊）、▼74kg級 本名栄仁（新潟・巻総合高教）、
▼84kg級 小尾公彦（明大OBクラブ）、▼96kg級 後藤洋一（福島・喜多方工高教）、
▼120kg級 奈良英則（警視庁）

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 大津卓睦（中大OBクラブ）、▼60kg級 下
村博（自衛隊）、▼66kg級 綾田慎也（自衛隊）、▼74kg級 池田秀治（愛媛総合警備）、
▼84kg級 高橋伸吉（高橋工業）、▼96kg級 小向忍（自衛隊）、▼120kg級 前川豪（A
WC）

◇全日本選手権予選会（11月22日、東京・国立スポーツ科学センター）

※出場資格のない選手の予選会で、各階級とも上位4選手が出場資格獲得（成績省略）

◇東日本学生秋季新人選手権（11月28～30日、東京・駒沢体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 関口祐樹（山梨学院大）、▼60kg級 湯元
健一（日体大）、▼66kg級 岩井康輔（山梨学院大）、▼74kg級 マキシモ・ブランコ
（日大）、▼84kg級 尾島好洋（専大）、▼96kg級 松本真也（日大）、▼120kg級 新
堀武（東洋大）

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 湯元進一（拓大）、▼60kg級 渡辺浩司（日
体大）、▼66kg級 小林威仁（早大）、▼74kg級 鶴巻宰（国士大）、▼84kg級 松永
修司（日体大）、▼96kg級 石沢幸佑（日体大）、▼120kg級 社藤哲也（日体大）

◇西日本学生秋季リーグ戦（11月22～23日、大阪・大阪府立体育会館第2競技場）

《順位》[1] 立命館大（5季連続7度目）、[2] 徳山大、[3] 福岡大、[4] 同志社
大、[5] 南九州大、[6] 近大、[7] 桃山学院、[8] 日本文理大

◇全日本選手権（12月21～22日、東京・代々木競技場第2体育館）

《男子フリースタイル優勝者》▼55kg級 田南部力（警視庁）、▼60kg級 山本英典
（自衛隊）、▼66kg級 池松和彦（日体大助）、▼74kg級 小幡邦彦（総合警備保障）、
▼84kg級 横山秀和（秋田・秋田商高教）、▼96kg級 小平清貴（警視庁）、▼120kg
級 田中章仁（専大）

《男子グレコローマン優勝者》▼55kg級 豊田雅俊（警視庁）、▼60kg級 笹本睦（総合警備保障）、▼66kg級 飯室雅規（自衛隊）、▼74kg級 菅太一（警視庁）、▼84kg級 松本慎吾（一宮運輸）、▼96kg級 加藤賢三（自衛隊）、▼120kg級 鈴木克彰（警視庁）

《女子優勝者》▼48kg級 伊調千春（中京女大）、▼51kg級 服部担子（中京女大）、▼55kg級 吉田沙保里（中京女大）、▼59kg級 岩間怜那（リブレ）、▼63kg級 伊調馨（中京女大）、▼67kg級 菅原美々（国士大）、▼72kg級 浜口京子（ジャパンビバレッジ）